

日刊 動労千葉

84.10.6

No. 1760

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

55才組合員 懇談会開かる (9/26-27)

9月26日と27日の2日間にわかれて、動力車会館において、「今年度末、満55才となる組合員」35名参加のもとに高令者懇談会が開催されました。国鉄当局のクビ切り「三本柱」の攻撃の中で、なやみや不安、今後の見通しや様々な要求なども含めて率直に意見を出しあい、当局の不当な攻撃に怒りをもって本部―支部―組合員が一体となつて強固な団結を打ち固めて闘いぬくことを確認しました。

不当な「過員」攻撃を許さない

本部・布施書記長が、この間の経過と今後の取り組みについて報告を行いました。

現在、国鉄労働者にかけているクビ切り「三本柱」は、高令者に対する退職強要を中心とする攻撃であり、単に国鉄当局だけでなく「臨調・行革」をもって国鉄労働運動解体を策す反動・中曾根内閣の基本をなす攻撃であること。さらに国鉄再建監理委員会による「87年、民営・分割化」までの間に、10万人のクビ切りを強要する攻撃の第一歩であること。そして、何よりも高令者の組合員が自分の意に反した退職を強要されないように取り組みを強化しなければならぬ。そのため、国鉄当局からの不当な取り扱いなどは絶対にさせない。第二に「60・3」などにおいて、これ以上「過員」はふやさせない取り組みを一層強化していくことを提起しました。

さらに闘いを強化しよう

現在、「余剰人員の調整策」の提案のなかで動労千葉は「(4)職員の申し出による休職の取扱に関する特例について」のみ妥結してきたところであるが、本部としていただいた意見を尊重し、今後最大限の段階に入った団体交渉の強化を中心に闘いを強めていくことを明らかにしました。

- (1) 退職制度の見直し
- (2) 職員の申し出による休職の取り扱い
- (3) 職員の派遣

については「引き続き協議」になっていますが、今後状況に応じて、56才、55才の組合員の懇談会の再度の開催、さらには、50才台の組合員を対象とした懇談会の計画など「三本柱」粉碎の闘いにより具体的かつ強力に推進していくことを確認して成功裡に終了しました。

そして、そのためにも対政府・対国鉄当局との力関係を組合の側に圧倒的に優位に保ち、不抜の団結力・戦闘力をさし示し続けることの重要性を確認し、当面する「10・10五割動員」実現に全力を傾注していこうではありませんか。

クビ切りの「三本柱」に怒り

不安と怒り ― 真剣な討論

出席した今年度55才になる組合員のひびきをまじえた討論では、「これから先行きどうなるのか」「『三本柱』に怒りを感じる」等々不安や怒りが強くだされました。

主な意見としては、①年金支給年令が現在「55

10・10

蘇我支区廃止―「60・3」大合理化粉碎、クビ切り「三本柱」粉碎！ 三里塚二期阻止！ 示そう、動労千葉の底力 想いどき 決起へ！